

TEATRO COMUNALE DI BOLOGNA

TEATRO COMUNALE DI BOLOGNA

ボローニャ歌劇場

ボローニャ歌劇場

理想の歌手陣と
2大悲劇「ノルマ」と「トスカ」を携えて

オペラ発祥の国イタリア屈指の名門
4年ぶり7度目の来日



ノルマ
フランチェスカ・ドット

ポッリオーネ
ラモン・バルガス

アダルジーザ
脇園 彩

オロヴェーゾ
アンドレア・コンチェッティ

指揮:ファブリツィオ・マリア・
カルミナーティ

トスカ(ダブルキャスト)
マリア・グレギーナ

トスカ(ダブルキャスト)
マリア・ホセ・シーリ

カヴァラドッシ
マルセロ・アルバレス

スカルピア
アンブロージョ・マエストリ

指揮:オクサーナ・リーニフ
(ボローニャ歌劇場音楽監督)

ベッリーニ ノルマ

プッチーニ トスカ

演奏:ボローニャ歌劇場管弦楽団/合唱団

演出:ステファニア・ボンファデッリ

原語上演・日本語字幕付



演奏:ボローニャ歌劇場管弦楽団/合唱団

演出:ジョヴァンニ・スカンデッラ

原語上演・日本語字幕付



プッチーニ
トスカ

【全3幕】

トスカ
マリア・グレギーナ (11/2再演)
マリア・ホセ・シーリ (11/4再演)
カヴァラドッシ
マルセロ・アルバレス
スカルピア
アンブロージョ・マエストリ
指揮: オクサーナ・リーニフ
(ボローニャ歌劇場音楽監督)



第3幕の舞台スケッチ

いま世界でいちばん熱い指揮者と当たり役の名歌手がそろって、これが《トスカ》の決定版!

《トスカ》ほど濃いオペラはない。陰謀、拷問、強姦、殺人、処刑、自殺と、あまりに多くの状況が降りかかり、主要な登場人物4人は身動きがとれないまま相次いで命を失う。観客は正味2時間のうちに、いくつものオペラを観たのに匹敵するほど、数々の展開と感情を経験する。

これだけ内容が詰まった世界を、プッチーニは緊張感の高い音楽で埋め、抒情性も絶妙に加味した。そんなオペラを世界最高水準で生き活きと描ける指揮者がオクサーナ・リーニフだ。事実、彼女が2021年に英国ロイヤル・オペラ・ハウスで指揮した《トスカ》は、圧倒的に称賛された。

そんな稀有な才能のもと最高の歌手がそろそろ。トスカはこの役が十八番で、欧州中心に高い評価を得るマリア・ホセ・シーリと、この役で世界の一流劇場を納得させてきたマリア・グレギーナのダブルキャスト。恋人のカヴァラドッシは世界的スターテノールで、やはりこの役が十八番のマルセロ・アルバレス。警視総監スカルピアはドスが利いた美声が圧巻のアンブロージョ・マエストリ。

《トスカ》の決定版、ここにあり。

香原斗志 (オペラ評論家)



マリア・グレギーナ (ソプラノ)

ウクライナのオペラサ出身のドラマティック・ソプラノで、1987年にヴェルディ《仮面舞踏会》でミラノ・スカラ座にデビュー以来、劇的かつ美しい表現で世界のオペラシーンを沸かせてきた。なかでもトスカは当たり役で、MET来日公演におけるバヴァロッチェとの共演は語り草だ。いまなお最高のトスカ歌いである。



マリア・ホセ・シーリ (ソプラノ)

ウルグアイのイタリア系の家に生まれ、ドラマティックな声求められるオペラで、国際的にもっとも重要視されているソプラノのひとり。常連であるミラノ・スカラ座のほか、ウィーン国立歌劇場や英国ロイヤル・オペラ・ハウスなど欧州の主要劇場をホームグラウンドとする。とりわけトスカ役は各地で称賛されている。



マルセロ・アルバレス (テノール)

アルゼンチンで家業の家具工場を営んでいたが、30歳で一念発起してイタリアに渡りオペラ歌手に。またたく間に世界中の主要歌劇場や音楽祭を席巻した。ベルカントやフランス・オペラを歌いながら声が自然に成熟。現在はドラマティックな役柄を中心に歌うが、アルバレスだけがもつ艶のある輝かしい声は失われない。



アンブロージョ・マエストリ (バリトン)

イタリアのパヴィア出身。リッカルド・ムーティに見いだされ、ミラノ・スカラ座でヴェルディの主要な役を次々と歌ったのち、メトロポリタン歌劇場、ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤル・オペラをはじめ世界の主要劇場に進出。品格ある深い声、エレガントなフレーズ、圧倒的な音量などいづれも一流だ。

オクサーナ・リーニフ (音楽監督・指揮)

ウクライナのリヴィウ州出身。地元音楽院に続きドレスデン音楽大学で学び、2013/14シーズンからバイエルン州立歌劇場でキリル・ペトレンコのアシスタントを務める。17~20年はグラーツ歌劇場と同フィルの首席指揮者としてオペラと交響曲の双方で腕を磨き、その後は欧米の主要な劇場やオーケストラへの客演が目白押し。21年、バイロイト音楽祭で指揮した《さまよえるオランダ人》は大絶賛された。22年1月よりボローニャ歌劇場音楽監督。

世界最注目女性指揮者オクサーナ・リーニフが音楽監督に。ボローニャ歌劇場は最高の旬を迎えている!

生活も文化も水準の高さがイタリア屈指で、ユネスコの「音楽創造都市」にも認定されている——。ボローニャはそんな町だから、歌劇場に寄せられる期待も大きい。錚々たるキャストを集めて上演されるオペラ公演は、オペラの殿堂と呼ぶにふさわしい水準の高さを誇る。それはこれまで6回におよんだ来日公演でも証明されており、現地では900ほどの客席をめぐってチケット争奪戦が繰り広げられる。

オーケストラの実力も高く、多くのマエストロがイタリアで三指に入ると語る。そしていま、この名門はあらたなステージに入った。2022年からウクライナ出身のオクサーナ・リーニフを新音楽監督に迎えたのである。

その前年、女性としてはじめてバイロイト音楽祭の指揮台に立ち、絶賛されたリーニフは目下、世界最注目指揮者。そんな旬の才能に率いられた最高のタイミングで4年ぶりの来日が叶う。

香原斗志



ベッリーニ
ノルマ

【全2幕】

ノルマ
フランチェスカ・ドット
ポッリオネ
ラモン・バルガス
アダルジーザ
脇園 彩
オロヴェーゾ
アンドレア・コンチェッティ
指揮: ファブリツィオ・マリア・カルミネーティ

Francesca Dotto

ドット、脇園、バルガス、最高の歌手が導く崇高さイタリア・オペラの最高傑作《ノルマ》の愉悦!

ベッリーニの最高傑作であるばかりか、イタリア・オペラのなかでも抜きん出た傑作と評されるのが《ノルマ》である。

人々の精神的支柱である巫女なのに、敵の男を愛してしまったがゆえの悲劇。美しさのなかに力強さも備えた格調高い音楽をとおして、作曲家はノルマの葛藤をみごとに描く。また葛藤は生々しいのに、音楽の力によってドラマは崇高でさえる。

それだけに、ノルマ役はソプラノの役のなかでもとくに負担が重く、あらゆる表現が要求されるが、フランチェスカ・ドットを得て成功は約束された。3月にドットが歌うノルマをボローニャで聴いたが、コントロールが行き届いた知的な歌唱で、声の色彩を自在に操って感情の変化を縦横に表した。この役に欠かせない品位も申し分ない。

そのときアダルジーザを歌った脇園彩も、レガートが磨き抜かれた完璧な歌唱をとおして感情を鮮やかに描き、ドットとの声の相性も抜群だった。そこに品格で負けないラモン・バルガスのポッリオネが加わり、ベルカントの名匠、ファブリツィオ・マリア・カルミネーティが指揮する。崇高な悲劇にだれもが酔うはずだ。

香原斗志 (オペラ評論家)



フランチェスカ・ドット (ソプラノ)

北伊トレビーゾで生まれ、古典人文科学を学んだのちフルート、音楽の学位を修得。2011年、ヴェネツィアのフェニーチェ劇場に《ラ・ボエーム》のムゼッタでデビューして以来、知性に裏づけられた歌唱で主要劇場での活躍はめざましい。2018年にローマ歌劇場の日本公演で歌った《椿姫》の名唱も記憶に新しい。



ラモン・バルガス (テノール)

メキシコシティで生まれ、1992年にMETでバヴァロッチェの代役として《ルチア》のエドガルドを歌って以来、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座など世界の主要なオペラシーンを席巻。これまでに50を超える役を歌ってきた。端正でエレガントな歌唱はオペラ《ノルマ》の崇高さにふさわしい。



脇園 彩 (メゾソプラノ)

東京藝大院修了後に渡伊。バルマ国立音楽院、ペーザロのロッシーニアカデミーを得てミラノ・スカラ座アカデミー修了。以後、イタリアの主要劇場を中心にヒロインを数多く歌う。ロッシーニが得意だが、最近レガートを磨いてベッリーニなども習得。すでにアダルジーザはスペインやボローニャで大成功を取っている。



アンドレア・コンチェッティ (バス)

中部イタリアのマルケ州で生まれ、ペーザロのロッシーニ音楽院を卒業。ベルカント・オペラを歌う揺るぎない技巧を修得し、キャリア初期にミラノ・スカラ座に主役デビュー。その後は世界の主要な劇場や音楽祭への出演を重ねてきた。故C.アッパードとのコラボは長きにわたり、R.ムーティらの信頼も厚い。



ファブリツィオ・マリア・カルミネーティ (指揮)

ドニゼッティの生地ベルガモで1958年に生まれ、若くしてトリノ王立劇場に入り、92年に《ラ・ボエーム》で指揮デビュー。これまで主要劇場で60を超えるオペラを指揮し、とりわけベッリーニをはじめとするベルカント・オペラで高い評価を受ける。2000年からカタニアのベッリーニ劇場の芸術監督も務める。

(プロフィール紹介: 香原斗志)

プッチーニ: 歌劇《トスカ》

2023 **11/2 (木) 18:30開演** **11/4 (土) 15:00開演**

トスカ: マリア・グレギーナ (11/2)、マリア・ホセ・シーリ (11/4) カヴァラドッシ: マルセロ・アルバレス
スカルピア: アンブロージョ・マエストリ 指揮: オクサーナ・リーニフ
S席38,000円 A席32,000円 B席26,000円 C席21,000円 D席16,000円 (税込)

ベッリーニ: 歌劇《ノルマ》

11/3 (金・祝) 15:00開演 **11/5 (日) 15:00開演**

ノルマ: フランチェスカ・ドット ポッリオネ: ラモン・バルガス アダルジーザ: 脇園 彩
オロヴェーゾ: アンドレア・コンチェッティ 指揮: ファブリツィオ・マリア・カルミネーティ
S席38,000円 A席32,000円 B席26,000円 C席21,000円 D席16,000円 (税込)

会場: 東京文化会館 大ホール
5月21日(日) 10:00より一般発売

●チケット取扱い
コンサート・ドアーズ 03-3544-4577
www.concerthdoors.com (平日10:00~18:00)

東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650 (10:00~18:00)
楽天チケット <https://r.t.jp/> チケットぴあ <https://t.pia.jp/>
e+ (イープラス) <https://eplus.jp/>

主催: コンサート・ドアーズ 後援: イタリア大使館

※やむを得ない事情により演奏者が変更になる場合がございます。
※未就学児童の入場はお断り致します。 ※チケット購入後のキャンセル・変更はできません。